様式4

学 校 番 号 18

令和 5 年度　学校評価書（学校運営協議会用）　（計画段階・実施段階）

福岡県立戸畑工業高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）

学校運営方針	志高く叡知を磨き、誠実かつ心身ともにたくましく地域の産業界に貢献する工業人の育成		評　価（総　合）
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
創立85年となる本校は、北九州一円の産業界の発展に寄与する工業人の育成を行ってきた。 開校当時より企業との深い信頼関係で繋がっている歴史の中、平成19年度から地元企業に協力を得ながら、長期企業実習における最新技術や熟練技術に触れる「戸工版デュアルシステム」を本校の3年間のキャリア教育の中心として実施している。 また、1年次に機械・電気系、建築系のそれぞれの基本的内容を学んだ後、2年次から興味・関心・適性・進路希望に応じて選択できる「得意技コース制」（機械・電気系の機械科【機械技術コース、自動車技術コース】、電気科【電気技術コース、電力管理コース】、情報技術科【情報通信コース、ロボット技術コース】の6コース、建築系の建築科【建築技術コース、建築デザインコース】の2コース）による実践的・体験的技能教育を推進することによって大きな成果をあげている。	各教科・科目において観点別評価を充実させ、「指導と評価の一体化」を図り、新しい時代に必要な資質・能力を育成する。	○各教科・科目において育成すべき観点ごとの指導目標及び内容と、評価基準を一体的に検討することで授業改善を図る。	
		○「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、ICTの活用等によるわかる授業の創造、個に応じた学習指導の工夫、家庭学習の定着を図る。	
		○教科指導方法等の課題の解決を図るために、教科内、学科内、学年内で生徒情報を共有するとともに、授業改善を推進させるカリキュラム・マネジメントを実践する。	
	高校生活3年間を見通したキャリア教育の推進及び特色ある教育活動（戸工版デュアルシステムや得意技コース制）を充実させ、個々のニーズに応じた進路実現を図る。	○各学年と教科及び学科が連携し、「キャリアパスポート」を活用した3年間を見通した計画的、組織的なキャリア教育を推進するとともに進路指導体制を構築する。	
		○戸工版デュアルシステムによって、生徒の自己発見と自己改善がより図れるように、受け入れ先企業や保護者との連携のもと更に教育体制を強固なものとする。	
		○学年と学科・コースの連携を図り基礎的・基本的学習内容を身に付けさせるとともに探究的な学習やものづくり、部活動や資格取得を推進する。	
	望ましい集団活動をとおして心身の調和のとれた発達を図るとともに、人権感覚を育成し、いじめのない学校づくりを推進する。	○教育活動全体をとおして、挨拶やコミュニケーションを大切にし、常に生徒の実態把握と情報共有に努めたきめ細かな教育活動を推進する。	
		○生徒の主体的な特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）を推進する。また、部活動の活性化に努め、生徒の生きる力や協働力を育み、活力ある学校づくりを推進する。	
		○道徳教育と人権教育を充実させ、生徒の規範意識の向上や自尊感情の醸成、思いやりの心の育成に努め、いじめや差別の無い学校環境をつくる。	
	保護者や地域と積極的に連携し、社会に貢献できる人材を育成するとともに地域から愛される学校づくりを推進する。	○地域からの正確な情報受信と地域への積極的な教育活動の情報発信のため、ホームページ等の内容充実を図る。	
		○ボランティア活動や関係機関、企業をはじめとする地域との連携及び交流による教育活動を推進する。さらに、ものづくり教室等で本校が行う専門教育の成果を地域に還元する。	
		○PTA・同窓会との連携や中学校訪問、また、学校評議員・学校関係者評価委員による外部の意見を教育活動に反映させる。	
	風とおしの良い職場環境と安全・安心な教育環境を整える。また、「働き方改革」を推進し、効率的・効果的な教育活動に努める。さらに、経験の浅い若年教員に対する支援体制を強化する。	○計画的・組織的な教育活動を展開する中で、綿密な職員間の情報共有や安全点検の実施により学校の衛生・保健環境整備を行う。	
		○学校行事や業務の目的を明確にし、計画・実施・検証・改善のサイクルを意識しながら効率的・効果的な教育活動に努める。	

評価項目		具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	学習指導	各コースの専門性を高めるための技術、技能の確実な習得	各コースで学べる知識、技術を明確にし、進路意識を高めるための説明会等を適切な時期に行い、目標をもって学べるようにする。				
			各科の専門性が高められるよう、各科主任との連携を密にし、将来を見据えた計画的な資格取得の推進に努める。				
		主体的に学習に取り組む意欲や態度の育成と、確かな学力の育成	観点別学習状況の評価基準を作成し生徒に提示する。さらに観点別学習状況の評価を活用し個別最適な学びの充実を図る。				
			生徒情報交換会を学期に1回以上実施し、学習の遅れがちな生徒や学習への困難さを抱える生徒の把握に努め、早期に適切な指導を行う。				
		学んだ知識や技術を活用し、自ら考えて行動できる力の育成	授業や実習で身に付けた知識や技術を教科横断的に活用できる場面を設定し、ICT機器を活用した学習指導を計画する。				
			各授業でタブレット端末等のICT機器を積極的に活用し、分かる授業を展開する。また、学習成果の見える化に努め、生徒の学習意欲向上につなげる。				
	企画・広報	諸行事、会議等の効果的な運営に努める。	関係分掌と連携を密にし諸行事、会議等を円滑に行えるよう会議資料等を早めに作成し、事前に内容を把握できるよう準備する。				
		本校の魅力を積極的に発信し、広報活動の充実を図る。	中学校訪問、体験入学、学校HPの充実を図り本校の魅力を積極的に発信することにより広報活動の充実を図る。さらに戸畑駅構内の掲示板の有効活用を行う。				
		地域から愛される魅力ある学校作りに努める。	地域の行事やボランティア活動等へ積極的に参加し、保護者や地域の方々のニーズを伺いながら、教育活動へ反映する。				
	研修図書	ICT機器の活用を中心に授業改善につながる充実した研修環境を作り、教科指導力、授業技術の向上に寄与する。	ICT支援員と協力し授業でのタブレット端末の活用事例を紹介する研修を行う。また、今年度導入される新しいアプリケーション（MetaMoji）を利用した授業実践を若年教員の研修に取り入れ、研究授業等で発表させ利用促進を図る。				
		教育活動が円滑に行われるよう各分掌、科と連携を図りなあら研修の機会や資料・情報の提供を行う。	合理的配慮や支援を必要とする生徒の指導についての知識・理解を深め、具体的な指導に結びつけられうよう、養護教諭、スクールカウンセラーと連携を図るとともに、外部機関の講師による研修を行う。				
		図書館の利用促進を図る。	年2回の読書週間を実施する。また、必要に応じて選書委員会を実施し、生徒の興味・関心を喚起するような書籍を購入する。				

学校運営協議会評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校運営協議会からの意見

生徒	生徒指導	魅力ある学校づくりと規範意識の高揚及びにマナーの向上	学校行事への積極的な参加と準備段階での各委員会の自主的活動を促進する。						
			教育活動全体を通して、規範意識を高める指導を行うとともに、行事や集会における、集団活動を通して、他者との係わり方やマナー意識の向上に繋がる指導を行う。						
		生徒会活動のサポートと活性化及び充実	生徒会の組織づくりと自治力の向上を図り、生徒の自主性や自発性を育む。						
			学校行事の準備段階や集会時などにおいて、生徒会役員を主体的に取り組ませ、リーダー意識を高める。						
	保健・環境	総合的健康管理能力の養成	保健委員や美化委員が主体となり、安全・衛生・健康について自己管理能力を高める活動を実施する。感染症対策にも留意させる。						
		要支援生徒の理解と支援体制の確立	保護者、教職員、専門家、地域の関連機関などと連携を図り、教職員間の共通理解を強化し生徒の支援体制を推進する。						
		ボランティア活動の推進	ボランティア活動を通して生徒の自尊感情を高めるとともに、地域社会に貢献させる。						
進路	進路指導	生徒個々の適性と専門性、希望に基づいた進路指導と、学年、学科と連携した進路指導体制の確立。	(1学年) 適性検査やキャリアパスポート等で適性や個性を知り、基礎的・基本的学習内容を身に付けさせるとともに進路目標を実現するためのコースを選択させる。						
			(2学年) 進路についての意識を高め、具体的な進路目標を決めさせるとともに、進路目標の実現に向けて資格取得等で実力を身に付けさせる。						
			(3学年) 就職では就職模擬試験や模擬面接、進学では課外学習等に取り組ませ、より具体的な実力や資質を養成する。学年・学科との連携を図り、能力や適性に応じた進路実現を支援する。						
	デュアルシステム	戸工版デュアルシステム等による社会的・職業的自立に向けた能力や態度の育成。	働くことを通して、社会人として必要とされる資質(挨拶、礼儀、忍耐力、コミュニケーション能力等)を身に付けさせる。						
			働くことの意義や社会貢献の大切さを理解させ、自己の課題を学校生活の中で改善させる。						
人権推進	人権学習	人権が尊重された安心・安全な学校づくりの推進	いじめアンケートや学校生活アンケートを利用したり、生徒の何気ない言動にも細かく心を配ったりして、差別発言やいじめを見逃さない。						
		人権・同和特設授業のさらなる充実	各クラス担任団が協力して人権・同和特設授業に取り組み、生徒に差別を許さない、差別を見逃さない態度を育む。						
		生徒・職員の人権感覚を高めるための組織的な取り組み	HR活動や授業など、学校の教育活動すべてにおいて、人権教育に取り組むため、外部講師の招聘により職員の研修体制を充実させる。						
学年	1学年	社会人に向けての基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立のために欠席や遅刻をしない雰囲気作りを大切にし1年間皆勤80%を目指す。						
		道徳を重視したいじめのない学級づくりと人権感覚を育成	挨拶やコミュニケーションを大切にし、いじめの無い環境作りと思いやりの心の育成に努める。						
		将来を見据えたキャリア教育の確立	進路に対する意識付けのために、デュアルシステムや「キャリアパスポート」を活用したキャリア学習を推進し、将来への明確な目標を持たせる。						
	2学年	基本的生活習慣の確立	学校生活全般において、挨拶を重んじ身の回りの荷物を整理させ学習環境を整えた状態で授業を開始するなど、けじめを付けた行動を毎日指導することで、基本的生活習慣の確立を図る。						
		戸工生としての規範意識の確立	学校生活全般において、校則を厳守する行動をとるよう指導する。特に頭髪服装検査をはじめ、学年集会と学年終礼を学期に2度、定期的に行い時間とルールの厳守、協働することの重要さを身に付けられるよう指導する。						
		自ら考え行動し、積極的に学校生活に取り組むことができる生徒の育成	学校生活全般において、他者と協働しながら主体的に課題に向かうことでより良い学校生活が送れるように個々を指導しサポートできるよう教職員の支援体制を確立する。そのために各学校行事の前に学年団で密に連携を取れるように事前打ち合わせを行う。						
	3学年	社会生活の基盤を確立し、積極的に社会に貢献できる人材の育成	将来の目標を見据えた進路指導を行い、第一希望進路の実現を目指す。 第一希望進路実現95%以上(昨年91%)						
			望ましい集団活動を通して、社会生活における規範意識や帰属意識を指導する。						
			教員間の共通認識により、生徒への徹底した指導を全教員で行う。						

学科								
機械・電気系	機械科	安全教育と5Sの徹底	実習開始時の服装点検を徹底し、作業中の安全に対する意識を高める。また、工場の整理・整頓や工具の管理に努める。					
		資格取得と進路実現	進路実現に向け、多くの資格取得にチャレンジさせ、希望進路の達成100%を目指す。					
		ものづくりと地域貢献	ものづくり技術の向上を目指し、各種ものづくり大会への上位入賞と九州大会以上の出場をめざす。また親子ものづくり教室などを通して地域貢献を目指す。					
	電気科	安全意識の徹底	5S活動の徹底と服装確認、工具・機器の点検により安全意識の向上を図り事故0を目指す。					
		進路実現と地元産業界から求められる人材の養成	専門分野に興味関心が持てる指導を行い、地元産業界で活躍する人材を養い、希望進路100%実現を目指す。					
		資格取得意識の向上	第二種電気工事士の合格率80%を目指すとともに、更なる有用な資格取得の受験を促す。					
	情報技術科	安全教育の徹底	「情報技術科実習の心得」に基づき、ルールを守って安全に実習に臨むことが最優先であることを徹底し、年間を通じて怪我無く実験・実習を行う。					
		計画的、組織的な教育活動の推進	定期的な科会議等を実施し、計画的に業務を行う。また、生徒状況の情報共有を図り、生徒へ適切な教育支援を実践する。					
		資格取得の推進	得意技コースに沿った取得目標資格を定め、計画的に指導を行うことで合格率を向上させ、生徒の自尊感情を高め、ジュニアマイスターブロンズ取得者5名を目指す。					
建築系	建築科	安全教育の徹底	5S+2Sを主体的に実践させ、工業人として必要な資質・能力の育成に努めるとともに、安全作業の徹底を図る。					
		ものづくりによる地域貢献	地域貢献活動及びものづくり教室等の充実を図り、社会に貢献する姿勢と態度を育てる。					
		資格取得の推進と進路保障	各種資格取得に向け、組織的な指導体制を構築し、合格率の向上を目指すとともに、希望進路100%を目標とする。					
事務室	事務業務	効率的な予算執行による生徒の学習環境整備	必要な箇所への予算執行のため柔軟な分権予算の組み替えを行い迅速に対応することで、生徒の学習環境整備に努める。					
		適切な事務業務運営	効率的な事務処理を心掛け、正確な会計処理を目指す。					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

評価項目以外のものに関する意見